

## 取扱説明書

セレックスバルブ

AFS1-02-3  
0<sup>3</sup>4

- 製品をお使いになる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。
- 特に安全に関する記述は、注意深くお読みください。
- この取扱説明書は必要な時にすぐ取り出して読めるように大切に保管しておいてください。

# 販売終了

## 本製品を安全にご使用いただくために

本製品を安全にご使用いただくためには材料、配管、電気、機構などを含めた空気圧機器に関する基礎的な知識(ISO 4414 \*1 JIS B 8370 \*2)を必要とします。

知識を持たない人や誤った取扱いが原因で引き起こされた事故に関して、当社は責任を負いかねます。

お客様によって使用される用途は多岐にわたるため、当社ではそれらを把握することができません。ご使用条件によっては、性能が発揮できない場合や事故につながる場合がありますので、お客様が用途、用法に合わせて製品の仕様の確認および使用法をよく理解してから決定してください。

本製品には、さまざまな安全策を実施していますが、お客様の誤った取扱いによって、事故につながる場合があります。そのようなことがないためにも、**必ず取扱説明書を熟読し内容を十分にご理解いただいたうえでご使用ください。**

本文中に記載してある取り扱い注意事項とあわせて下記項目についてもご注意ください。

### ⚠ 注意 :

- 電気配線接続部(裸充電部)に触れると感電する恐れがあります。配線時には必ず電源を切ってから作業してください。また、濡れた手で充電部を触らないでください。

\*1) ISO 4414 : Pneumatic fluid power … Recommendations for the application of equipment to transmission and control systems.

\*2) JIS B 8370 : 空気圧システム通則

# 販売終了

取扱い説明書

番号 SM-0650 14

02

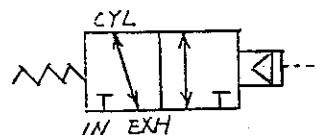
F S 1 - 0 3 - 3 型 マスター バルブ

04

## 作動要領

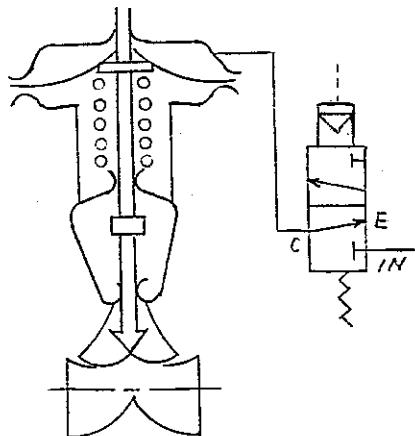
パイロット信号 OFF : IN ..... 止 CYL → EXH

パイロット信号 ON : IN ← CYL EXH ..... 止

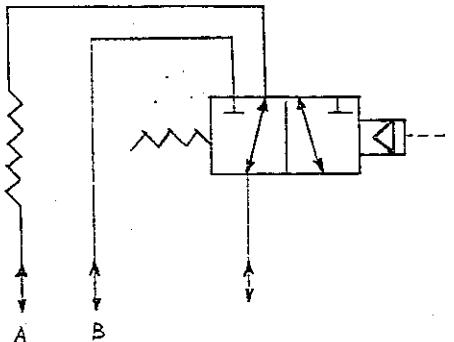


## 使用例

### 1. ダイヤフラム弁に使用の場合

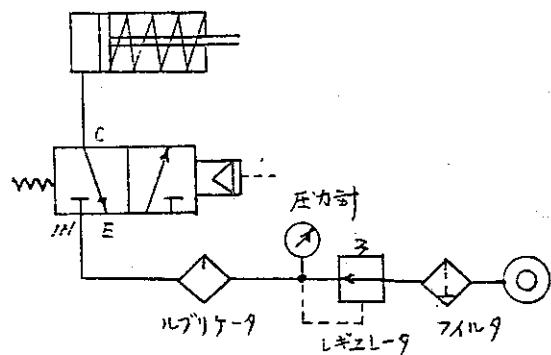


### 2. 流通方向切換の場合



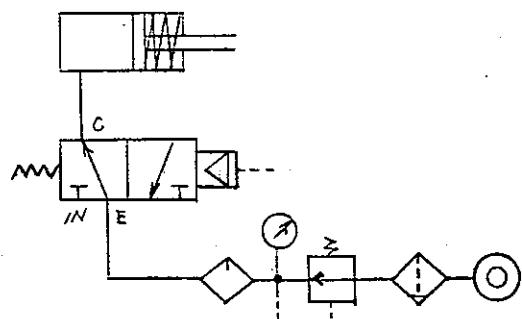
### 3. 片側加圧シリンダーを操作する場合

で信号OFF時にシリンダーを操作しない時



### 4. 片側加圧シリンダーを操作する場合

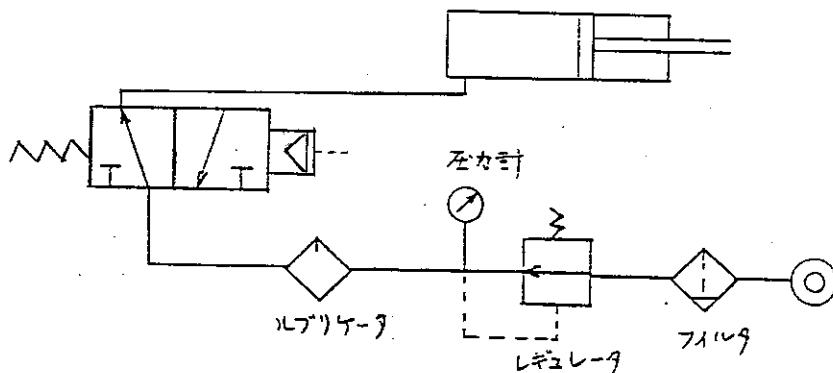
で信号ON時にシリンダーを操作する時



## その他の

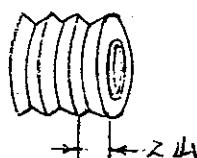
- 1 このバルブは2位置弁になるためニュートラルの位置はありません。
- 2 シリンダーのスピードコントロールが必要なる時は排気側にメタリング(ニードル型式のもの)バルブを接続して可能です。
- 3 空気の信号による作動のほかに(ロッド弁本体に付いているゴムブッキングの上よりロッド等で押し、手にて作動させることも出来ます。

## 配管



1 バルブを取付ける前に管路内は出来るだけ清掃してください。

① ゴミ、バリをよく取除いてください。



② ネジ2山まではシール剤を付けぬ様にしてください。

2 弁前にはフィルター及びルブリケータを取り付けること。

油はタービン油 #90を使用してください。

3 取付時、バルブに無理な力を加えないようにしてください。

4 取付場所は出来るだけ振動、衝撃の少ない場所に取付けてください。

5 配管後、各部からの漏れがないがチェックを行ってください。

6 保守の際に工具が出来るスペースを考慮してください。

## 維持管理

## (A) 分解

## 1. バルブ本体の分解

- ① カバーを取り外す。
- ② パイロット弁本体を取り外す。
- ③ ピストンを抜き取る。
- ④ バネを取り外す。
- ⑤ スリーブを抜き取る。

図面 参照のこと。(CD-584297)

## 2. 注意事項

- ① スプールを抜き取り長く空気中に放置しないでください。  
(油中につけておくのがよい)
- ② スリーブに付いてはなるべく取り外さない様にしてください。  
(O-Ringが切れる)
- ③ スリーブ、スプールを抜き取る場合、素手にてふれないでゴム手袋等をはめて抜いてください。(素手にてふれたところから腐しよくする)
- ④ 組立てる時はピストン外面及びバネ穴、スリーブの内面にゴミ類を付けない様よく洗浄した上で組立てる。
- ⑤ パイロット弁本体はかたく止めてください。(特に高頻度にて使用の時は外れ易い)